

沖縄から次の戦争を止める

第三〇回全国教育研究交流集会記念講演（二〇二二年二月五日）

三上智恵

みかみ ちえ
ジャーナリスト・映画監督
毎日放送・琉球朝日放送でキャスターを務めながら
ドキュメンタリーを制作 2010年放送ウーマン戦
初監督『標的の村』と『沖縄スバイ戦史』（共同監督）で
キネマ旬報文化映画部門第1位を二度受賞
『証言 沖縄スバイ戦史』（集英社新書、2020年）で城山三郎賞

新型コロナのオミクロン株大流行が始まった沖縄県からきました。三上智恵です。皆さん、この感染急拡大の理由はわかりますか？ そうアメリカ軍です。基地の中で大クラスターも発生している。日本の検疫制度を免除された米兵がどんどん入ってきて、基地の外に出てきてしまう。日本の法の上に日米地位協定があると言われるゆえんです。日本の主権は米兵の行動を制限することができない。基地被害はこんな形でも沖縄を襲います。

「南西諸島に攻撃拠点」「沖縄また戦場に」これはきのう一二月二四日の『沖縄タイムス』の新聞の一面です。今沖縄は大変なことになっています。ある自衛隊幹部の言葉です。「有事の際、自衛隊には住民を避難させる余力はない。自治体にやってもらうしかない」。自衛隊が来たら、本当に島民を守ってくれるのか？ という議論が以前からありましたが、そんな余力はないとはつきり言っています。

「軍の暴走は認められない」。沖縄戦の再来だと、『琉

球新報』の今日の社説にあります。私は去年から、オリンピックが終わったら一気にキナ臭くなると予告してききましたが、その通りになりました。

記事の内容を簡単に言うと、アメリカ軍はこれから自衛隊と一緒に、南西諸島の島々を自由に拠点しながら中国を軍事的に封じ込める作戦を展開する、その計画を、新年早々に予定されている2+2、日米安全保障協議委員会でも合意することが分かった、ということです。沖縄県民が生活する場が戦場と想定されている。考えられない話ですが、この日米外務防衛の閣僚が出席する会議はすでに決まったものを承認する場であり、日本側が「これはまずいです」と拒否した前例もない。ほぼ間違いなく、共同通信がすっぱ抜いたこの作戦計画通りに承認され、宮古島も石垣島も、必要であれば米軍がミサイルを持ってきて拠点にされます。

私は二〇一五年から自衛隊の問題をやってきました。その自衛隊問題と言う時に、自衛隊の是非とか、合憲・違憲とか、災害の時に有難いとか経済効果とか、様々な論点、きょうは全部忘れてください。そんな入り口論に時間を取られている余裕はないです。実際、米軍基地反

対には全国の平和団体が連帯してくれるのに、自衛隊基地反対となると半分くらいは引いて行ってしまう。自衛隊についてのスタンスは様々だとか、党の方針とか、入り口で絡めとられて先の議論に進めない。そうこうしているうちに、沖縄は自衛隊によって戦前に逆戻りです。沖縄の新聞は十一月、十二月、連日自衛隊の記事が一面になりました。米軍の記事がトップになるのは日常茶飯事ですが、こんなのは初めてです。

実は昨日、私たちは記者会見をしてきました。辺野古の現場のリーダーで私の映画にもよく登場する山城博治さんが呼びかけて「南西諸島を戦場にしない県民の会（仮称）」を作り、学者文化人が集まって、報道を受けてすぐに「沖縄を戦場にしていなんて誰が許可したか？絶対に許さない」と声を上げ、会の結成を呼びかけました。

宮古島・石垣島などに自衛隊のミサイル部隊を置かれたら必ず中国の標的になると私たちは二〇一五年から警鐘を鳴らしてきました。米軍の作戦「エア・シーバトル構想」は米軍の利益を守るもので、私たちを守りません。

でも今はEABO「遠征前方基地作戦」に移行しています。今日はこの言葉だけでも覚えてほしいです。つま